

建築家と子供の対話を通じた環境創造に関する研究 ：「子ども建築塾」における共感の役割に着目して

著者	田口 純子
学位授与年月日	2015-03-24
URL	http://doi.org/10.15083/00008173

審査の結果の要旨

氏名 田口 純子

田口純子による本論文『建築家と子どもの対話を通じた環境創造に関する研究―「子ども建築塾」における共感の役割に着目して』は「建築からの寄与」として取り組まれてきた一般教育としての建築教育を「建築への寄与」として評価し理論化するもので、研究の適合性に関して、審査委員会はその結果を以下のようにまとめる。

意義：当該教育に関する既往研究での解釈は、子どもに対する教授・補助の観点から脱却し得ない。それに対して本論文では、当該教育における対話のなかに建築家、子ども、環境が相互に変容する作用（共感）を見出した点、および、対話を通じた建築家の知識・社会的役割の再構築を提示した点に意義があると判断される。

構成：本論文は2部5章から成り、前後に序論と結論を付す。第1部では、建築教育の基盤を検討する際に鍵となる「美」と「愛」を対比し、一般教育との関係から考察している。第2部では、本人が子どもを対象とした建築教育の構築に携わり、その参与観察から対象の建築家のすぐれた共感的資質の役割を抽出している。第2部の具体例から第1部で提示された概念を実証し、本論文の主張である「愛」を基盤とした建築教育の在り方を導き出す構成は適切なものといえる。

研究方法：日本における子どもを対象とした建築教育のルーツと震災以降の当該教育の特性が、既往研究では対象とされていなかった一般教育、芸術教育、環境教育等の多様な分野から考察されている点、および、本人が当該教育の構築に携わり、既存の能力概念に捉われずその内からダイナミズムを見出した点に独創性がある。特に環境教育の国際的な思潮に強力な影響を与えた1960-70年代アメリカの動向をルーツとする建築教育の特性、および、震災以降の東北地域等における体験学習の特性を、後半の具体例における発話プロトコルの評価に結び付けた点が、本論文の主張の裏付けにつながっている。

独創性：参与観察やインタビュー等を通して、子どもを対象とした建築教育の実施者や開発者から貴重な一次資料が収集されている。本論文では三つの重要な発見がなされた。第一は、建築家、子ども、環境の相互変容を導く対話という方法論の有効性である。第二は、対話を推進する共感の重要性である。第三は、対話の評価方法である。以上を通して提案される「愛」を基盤とした建築教育は、挑戦的な主張ではあるが、今後の研究に有意義な指針を示している。

よって、本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。